

天理教 江南支部だより

発行先 江南支部
発行日 立教186年2月1日
発行責任者 福西 努
発行住所 甲賀町上野461番地9

2月号 N0271

立教186年 春季大祭執行



1月26日午前11時半から立教百八十六年の春季大祭が厳かに勤められた。記録的な寒波が日本列島を覆い、前日は各地で大雪に見まれ、交通機関がストップするなど足元が心配されたが、名阪国道や列車も動き出し、当日おぢばは冷たい風が吹く中ではあったがお天気のご守護を頂き、大勢の参拝者にぎわった。

祭典講話には中田善亮表頭領が、いよいよ教祖百四十年祭に向け年祭活動をスタートさせる今、改めて教祖が現身をお隠し下さった明治二十年陰曆正月二十六日を振り返り、昨年10月ご発布下さった論達に沿って、その歩み方を詳しく示され、全教一手一つの奮起を促された。

参拝者一同は、厳しい寒さの中、教祖のご苦勞を偲び、三年千日年祭活動への決意を新たにしました。



朝の信仰読本

中山慶純著

妻を変えた最期の涙

ある教会長さんから、こんな話を聞きました。

あるとき、長患いをしていた熱心な信者さんが、いよいよ危篤状態になったと知らせが入った。急ぎ病院へ駆けつけて必死でおさづけを取り次ぐも、モニターに表示される心拍数は徐々に下がって行って、取り次ぎ終わる前にゼロになってしまった。そして、そのまま出直された。

「大変なことになった・・・」

頭のなかが真っ白になり、途方に暮れた。出直しのショックもさることながら、奥さんは他宗教を信仰している。講社祭のおつとめに手を合わせたこともない。

「よりによって、おさづけの取り次ぎ中に出直されたんだ。きっと、このお宅は天理教をやめてしまうだろうな」

と肩を落とした。

しかし、その後、奥さんは次のような話をした。

出直す前日、いよいよ危ないと聞いて、夫の兄弟や親戚がそろって面会に駆けつけた。けれども、小康状態になったので、ひとまず全員が引き揚げた。

そして、自分一人になったときに会長さんが来て、おさづけの取り次ぎの最中に夫は息を引き取った。そのとき、夫の顔を見てハッとしたのである。

「会長さんにおさづけを取り次いでいただいているとき、主人はうつすらと笑みを浮かべて、涙をスーッと流したのです。『ああ、この人はきつと、兄弟や親戚を待っていたのではなく、会長さんが来てくださるのを待っていたんだな』と思ったのです」

そして「来月も講社祭、よろしくお願ひします」と言って、頭を下げた。

最期の涙を見て、ご主人がどれほどの思いでお道を通ってきたのか、奥さんはようやく悟ったのでしよう。そして

「私が信仰を引き継ごう」と、一気に心が切り替わった。いまでは講社祭に子供たちも集まって、にぎやかに勤められているとのことでした。

おさづけを取り次ぐ目的は、身上者の痛みや苦しみを取り除いていただき、その方にたすかっていたためです。よね。だから、取り次いで間もなく出直されたら、普通は「なぜ?どうして?」とショックを受けて、落ち込むと思います。けれども、それは人間心で、親神様の思惑は、全く別のところにあるのです。

このご主人は、おそらく奥さんにも信仰してほしいとずっと思っていたはずです。親神様はその願ひをお受け取りになり、さまざまな事柄やタイミングをピタリと合わせて、奥さんの心を変えられました。すべては、親神様のお計らいなのです。

どんなときも親神様、教祖におもたれし、「きつと良くしていただける」と信じて、おさづけを取り次がせてい

ただくことが大切です。そして、素晴らしいご守護が頂けるように、しっかりと理づくりや伏せ込みに励ませていただきますよう。



みんなの教理勉強 だめの教えって素晴らしい

飯田照明

本当の教えとは

・だめの教えでは偶像崇拜ぐわうぞうまつはいについてどのように考えるのですか。また、科学や医療についてはどうでしょうか。

世界には巨大な建物の中に神や仏の像をまつり、金銀宝石で飾り、華麗かれいできらびやかな飾りつけや美しい音楽で人々をひきつけている宗教があります。それは、感覚を刺激することで壮厳そうこんさを感じさせて、神仏のありがたさを感じさせていると言えます。お道は、そうした形の上での飾り立てや、偶像崇拜ぐわうぞうまつはいのようなものは一切ありません。

ん。目には見えませんが、日夜ご守護くださる偉大な親神さまのご守護を感じ、尊とうとび、崇あがめています。おぢばの神殿と礼拝場は、訪ねてくるすべての人が皆、感心して言うように素朴で、簡潔で壮厳そうこんです。元の神・実の神は、けばけばしい飾りやぜいたくでやたらに凝った建物などお喜び下さらないと思います。

ところで、宗教の中にはまだ、他宗を敵視したり、邪教や悪魔と決めつけて批判中傷や攻撃をし、敵愾てきが心を燃やしては信仰をかき立てているのがあります。そのことで批判されると今度は、受難じゆなんだ法難ほうなんだと言って殉教精神じゆんきやうせいじんをおおる排他的で攻撃的、戦闘的な宗教が、原理主義者とか、セクトとかカルトといわれているものの中にたくさんあります。そうした信仰の態度や姿勢は宗教間の対立抗争を生み、人々を絶え間ない戦いの泥沼に引きずり込む危険な教えです。人類が過去の苦い経験からせつかく作り上げてきた、他宗との平和な共存という生き方を逆行させ

るものですから、それらの動きに対しては十分注意を払わねばなりません。そして、理性と良識を取り持つて他宗にも心を開いて、寛容かんような心で共存の道を歩むように忠告する必要があります。お道のように他宗に対して一番開かれた温かい寛容な態度が、これからの宗教の正しいあり方と言えます。

また宗教の中には、科学技術から背を向け、その恩恵おんけいを拒否するのもあります。病気になるっても一切病院に行かないというものや、輸血はしないといったものもあります。

お道では、親神さまから仕込んでいただいた知的能力や学問で作り上げた科学技術を、人類の幸せのために善利用し、それを陽気ぐらしを実現するのに役立てることが大切なことであると教えられています。科学技術を正しく用いる、善用する必要性を説くお道の教えの重要性は、これからの人類社会にとってさらに高まっていくことでしょう。



支部婦人会が母親講座を開催

江南支部婦人会は、1月14日（土曜日）午前10時より甲龍分教会を会場に母親講座を開催した。受講生は教会後継者のお嫁さん3名の参加。最初に諭達を拝読。その後自己紹介を行い、続いてサイコロトークで色々なテーマの話し合いがなされ、親睦も深まり有意義な講座となった。参加者の皆様ご苦労様でした。



心にあるものを吐き出して
晴ればれた顔
同じ立場の者が語り合って
有意義な時間でした。



2月の支部にをいがけデー

2月28日（火曜日）午前9時より

拠点教会 雲井分教会 信楽町黄瀬661番地

いよいよ年祭活動スタートです。

勇んでつとめましょう！